平成２５年度研究成果報告書《平成 25 年度教育課程研究指定校事業》

| 都道府県・指定都市番号 | 1 | 都道府県・指定都市名 | 北海道 |
|---|---|---|---|
| 学校名（生徒数） | 北海道士別翔雲高等学校（４６２人） | | |

（本研究に係る問い合わせ先）
所在地：北海道士別市東６条北６丁目２４番地
電話番号：（０１６５）２３－２９０８
研究内容等を掲載しているウェブサイトの URL：http://www.s-shoun.hokkaido-c.ed.jp/

## 【研究成果のポイント】

○研究課題番号：４高等学校
○研究対象教科等：国語
○研究のキーワード：「古典学習への意欲喚起」，「言語活動」，「教員研修の充実」
○研究成果のポイント：（１）古典に興味・関心を持って授業に取り組む生徒の増加
（２）分析的な読みに偏らない文脈把握力の育成
（３）校内外の研修による国語科教員の授業力向上

## 【研究の目的，研究内容】

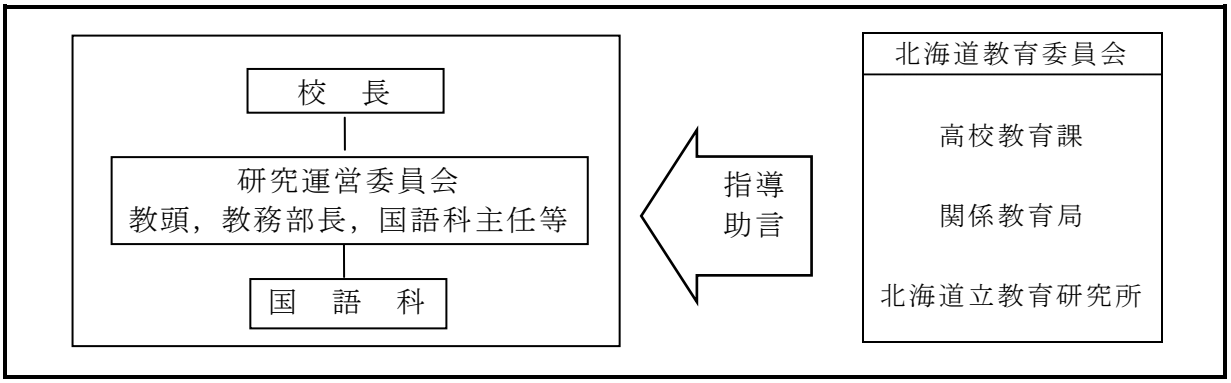
（１）研究主題

古典に対する生徒の学習意欲を高めることをねらいとした学習指導及び学習評価の在り方に関する研究

（２）研究主題設定の理由

本校は，平成１９年度に，士別商業高等学校と士別高等学校が統合して設置された学校であり，両校の良き伝統を大切に受け継ぎ，更に充実した教育活動を目指し，地域の教育の中心的な役割を果たしてきた。本校では，文法指導に偏りがちだったこれまでの本校の古典の授業の在り方を見直し，生徒が古典に対して興味・関心を持ち，学習意欲を高めるためには，生徒の主体的な学習活動を充実するなどの指導の工夫・改善に努めることや，総括テスト主体の評価方法を見直し，古典における観点別評価の工夫・改善に努めることが大切だと考え，本研究主題を設定した。

（３）研究体制




（４）１年間の主な取組の経過

| | |
|---|---|
| 平成25年度 | ４月　入学時アンケートの実施による学習状況等の把握<br>→把握した状況を踏まえた授業改善への取組（随時）<br>（課題の（逐次）把握，共有，方策の検討のための教科会実施）<br>９月　公開授業による授業研究，新学習指導要領に関わる講演会<br>11月　授業評価，アンケートの実施による検証と課題の把握<br>学校視察（北海道外４高等学校） |

（５）具体的な研究内容・方法，研究を進める上での工夫点等

①　学習意欲を高める授業の工夫・改善

Ａ　授業の導入部分の工夫により，学習の動機付けを行う活動

絵巻を加工した紙芝居の読み聞かせや，日記文学とブログ（現代の日記）との比べ読み，内容把握に関するクイズを取り入れ，本文を読むための強い動機付けを行う。

Ｂ　音読の重視により，言語感覚を豊かにする活動

ペアワークによる音読や，一人一人が声を出して行う漢文の訓読テスト等，授業内に音読の機会を積極的に設定することで，古典特有の調子や語感を味わわせ，言語感覚を豊かにするとともに，文章の理解を深めさせる。

Ｃ　グループ学習の活用により，生徒の理解を深める活動

生徒一人一人が主体的に考え，他の生徒と話し合う機会を設けることで，文章の理解を深めさせるとともに，考え方の視野を広げ，自分の考えをより明確にさせる。（歌物語の創作を実施。）

②　指導力の向上を図る教員研修の推進

Ａ　定期的な教科会議の開催による授業改善

週１回の教科会議で，授業の実践内容や課題等について情報交換を行い，他の授業での活用方法や課題の解決策について検討する。

Ｂ　研究授業の実施

校内外の関係者に授業を公開し，授業改善に向けた指導助言を得る。

Ｃ　他校における先行実践の視察

他校を視察し，先行実践事例について研修を行うとともに，本校の授業実践に活用する。（北海道外の４高等学校を視察）

**【研究成果とその意義等】**

（１）研究成果

①　古典に興味・関心を持って授業に取り組む生徒の増加

入学時と本研究後のアンケート比較の結果，古典にプラスイメージを持つ生徒が２割強増加し，生徒の苦手意識を改善することができた。

②　分析的理解に偏らない文脈把握力の育成

導入の工夫や音読の重視により，文法事項や単語の理解にこだわらず，作品の概要を読み取ろうとする姿勢を生徒に身に付けさせることができた。

③　校内外の研修による国語科教員の指導力向上

視察研修等において，協調学習など生徒が主体的に学習する授業実践を学ぶとともに，自校における公開授業や実践発表により，授業について検証し改善の手がかりを得ることができた。又，他校の教員や関係機関からの参加を得て，西辻主任視学官による講演を開催し，地域の国語の指導力の向上に資することができた。

（２）研究成果の意義等

古典は，高等学校の科目の中でも苦手な生徒が最も多い科目であるが，文化，とりわけ，言語文化の変遷を学び，言語感覚を豊かなものにする意味において大切な科目である。生徒が意欲的に取り組み，主体的に学ぶことができた本研究における授業実践が，今後，各種研究会等での周知により，他校の国語科教員の指導力向上の一助となることを期待する。

（３）指定期間終了後の取組

校内での情報交換や研修による授業研究はこれからも継続的に行い，一層効果的な授業の工夫に向けた研究を継続する。また，観点別評価等の学習評価の工夫・改善を今後の課題とし，学習指導の在り方について研究を行う。